

シンポジウム「地域医療福祉貢献に向けた産学連携」  
話題提供  
「NPOとしての地域医療福祉貢献」

1. 医療情報ICT化の貢献活動
2. 在宅医療福祉のシステム化貢献
3. 高齢者のためのQOL向上研究

特定非営利法人  
広域連携医療福祉システム支援機構  
周藤安造

## 1. 医療情報ICT化の貢献活動

### 医療分野における主なICT化分野

- ①電子カルテ、オーダーリングなどの診療支援システム
- ②レセプト(診療報酬明細書)のコンピュータ処理
- ③レセプトとカルテの情報統合システム (今後の方向)

カルテとレセプト情報の有用性や特徴を認識し、その統合システムの必要性を検討し、医療個人情報の活用分野を拡大していくことが重要となる。

その際、3原則(コスト、操作性、安心・安全)が前提となる。

## 地域医療機関のICT化

### ●ICT化の現状

電子カルテ： 病院向け 28.7%

(2012年) 診療所向け 23.8%

電子レセプト： 2010年 約80%

### ●ICT化の課題

深刻な医師不足、医療費抑制、超高齢化社会の到来など医療機関の経営は厳しく、ICT化推進のバリア。

⇒医療ICT化のインセンティブを高めるシステムモデルが求められる。

## レセプトの診療支援システムへの反映 統合医療情報システムの開発

### (1) 総合医療記録管理

⇒一患者について情報共有化が実現

### (2) EBM(科学的根拠に基づく医療)の充実

⇒診療のアウトカムやプロセスの評価

### (3) ネットワーク化によるチーム医療福祉が可能

⇒医療の質の向上

### (4) 統計解析などによる経営改善へのステップ

⇒医療コストの抑制

## 2. 在宅医療福祉のシステム化貢献

### (1) 25年問題に向けて今後在宅医療の重要性とニーズが高まる

高齢者で医療や介護を必要とする人が爆発的に増える「25年問題」

これにどう取り組むか

- 「時々入院、ほぼ在宅」の定着化に向けて
- 医療と福祉介護とのシームレスな連携が重要

## 在宅医療福祉のシステム化貢献(続き)

### (2) 在宅医療福祉・介護から地域包括ケアシステムへ

- 地域包括ケアシステム  
(個別ニーズから地域ニーズへ)
- 情報共有と多職種間連携  
(チームケア)

地域包括ケアが求められる背景

- ・高齢者ケアのニーズ増大
- ・単独世帯の増大
- ・認知症の増加

## 都市型在宅医療システムの開発 －方向性－

- \* これを受けてGCM,NPOでも、都市型在宅医療福祉問題に本腰で取り組むべき段階に来ていると考える。それには、産学官連携を一層進め、災害時対応も含めた特徴あるシステムや機器の研究・開発を急ぐ必要がある。
- \* 具体的には、我がNPO参加企業等が保有する無線インフラ、センサ、ネットワーク、M2M、クラウド、データベース、画像・映像技術など基盤技術や最先端技術を駆使し、世に先駆けて、超高齢化社会に向けて政府も重視しているこの問題に包括ケアへの展開も視野に入れて取り組む必要がある。
- \* そのためには、NPOとGCMがより密接に連携し、在宅医療福祉の研究部会チームを立ち上げることなども検討する必要がある。

### 3. 高齢者のためのやすらぎ (QOL向上)研究

#### (1) いやし、ストレス

高齢者QOLの向上

#### (2) 脳機能活性化の効果測定と評価

認知症防止